

実務経歴書（第1号様式の2）の記載について

※勤務先が複数ある場合、それぞれの勤務先毎に実務経歴書を記入してください。

※「建築士資格に係る実務経験の対象実務の例示コード表」は新潟県建築士会 HP を参照ください。

①申請年月日

申請年月日を和暦で記入してください。

②氏名

住民票上の氏名を正確に記入してください。

③勤務先

建築実務を行った勤務先の名称を部課名まで正確に記入してください。

④所在地

勤務先の住所・所在地を都道府県から番地、ビル名等まで正確に記入してください。

免許申請時に当該勤務先が移転している場合は、移転後の所在地を記入してください。

⑤在職期間の合計

「③勤務先」における入社から免許申請時までの在職期間とその年月数を和暦（年号はアルファベット）で記入してください。

⑥在職期間

「⑧建築実務の内容」で記入する建築実務を行った期間とその年月数を和暦で記入してください。

※直近の実務から古い実務の順に記入してください。

⑦地位職名

「⑧建築実務の内容」で記入する建築実務を行った際の地位職名を記入してください。

地位職名がない場合は、記入漏れとの区別のため、「—（ダッシュ）」を記入してください。

⑧建築実務の内容

「建築士資格に係る実務経験の対象実務の例示コード表※」内における対象実務の例示①～⑭を選択し記入してください。

⑨建築実務経験期間の合計

「⑥在職期間」の年月数の合計を記入してください。

⑩対象物件の名称等

物件の名称等を具体的に記入してください。

建築実務が物件名で示せない場合は、行った建築実務の内容を簡潔に記入してください。

なお、業務上の秘密保持や個人情報保護の観点により具体的な物件名称を記入できない場合は、イニシャル等を用いて記入しても可とします。（例：佐藤邸⇒S邸）

※直近の実務から古い実務の順に記入してください。

⑪対象物件の所在地

「⑩対象物件の名称等」で記した物件の所在地を正確に記入してください。

所在地が示せない建築実務である場合は、記入漏れとの区別のため、「—（ダッシュ）」を記入してください。

⑫建築実務経験期間

当該建築実務を行った期間を年月まで和暦（年号はアルファベット）で記入してください。

⑬建築実務の割合

「⑫建築実務経験期間」に、建築実務の対象となる業務を行った割合を記入してください。

なお、建築実務に該当しない業務や在職中であっても実際に建築実務を行っていない期間がある場合は、その分の割合を除いて記入してください。

⑭年月数

「⑫建築実務経験期間」に「⑬建築実務の割合」を乗じて算出した年月数を記入してください。

（例：R2年4月～R2年9月（6ヶ月）×50%＝3ヶ月）

⑮実務経験の対象となる業務の内容

[]内に「建築士資格に係る実務経験の対象実務の例示コード表※」に対応したコード番号を記入してください。

実務経験の対象となる業務の内容を、用途・構造・規模等を踏まえ、申請者が担当した作業内容がわかるように具体的に記入してください。

私は、**2級木造** 建築士の免許を受けたいので、建築実務の経歴を下記のとおり記載し、併せて第三者がこの実務経歴書の内容が事実と相違しないことを確認したことを証する実務経歴証明書を提出します。

私は、下記事項が真実で、かつ、正確であることを誓います。

①令和**3**年**1**月**10**日

②氏名 **建築 太郎**

新潟県指定登録機関
公益社団法人 新潟県建築士会長 様

勤務先等				
③勤務先(部課名まで)	④所在地(番地まで)	⑤在職期間の合計		
		年月～年月	年月数	
株式会社〇〇建築設計事務所 〇〇部〇〇課	新潟県〇〇市〇町〇丁目〇番地	H25年4月 ～ R2年12月	7年 9月	
⑥在職期間		⑦地位職名	⑧建築実務の内容(建築士法施行規則第1条の2)	
年月～年月	年月数			
H30年12月～R1年7月	0年 8月	—	工事の施工の技術上の管理に関する実務	
R1年8月～R2年6月	0年11月	技師	建築物の設計に関する実務	
R2年7月～R2年12月	0年 6月	主任・技師	建築物の工事監理に関する実務	
建築実務の詳細			⑨建築実務経験期間の合計	
			2年1月	
⑩対象物件の名称等	⑪対象物件の所在地	建築実務経験期間		
		⑫年月～年月	⑬建築実務の割合	⑭年月数
(1) 〇邸新築工事	新潟県〇〇市〇〇町〇丁目〇—〇	H30年12月～H31年4月	100 %	0年 5月
⑮実務経験の対象となる業務の内容(できるだけ具体的に 用途・構造・規模・担当業務 等)				
[4B-01] 〇邸(木造2階建て住宅、延べ面積〇㎡)新築工事において、大工工事の施工管理のうち、全工程の工事(基礎工事から内装仕上工事まで)を担当した。				
⑩対象物件の名称等	⑪対象物件の所在地	建築実務経験期間		
		⑫年月～年月	⑬建築実務の割合	⑭年月数
(2) ◆邸増改築工事	新潟県〇〇市〇〇町〇丁目〇—〇	R1年5月～R1年7月	100 %	0年 3月
⑮実務経験の対象となる業務の内容(できるだけ具体的に 用途・構造・規模・担当業務 等)				
[4B-01] ◆邸(木造2階建て住宅)のリビング〇㎡の改修工事、居室〇㎡の増築工事において、大工工事の施工管理のうち、全工程の工事(基礎工事から内装仕上工事まで)を担当した。				
⑩対象物件の名称等	⑪対象物件の所在地	建築実務経験期間		
		⑫年月～年月	⑬建築実務の割合	⑭年月数
(3) △地区 建売住宅新築工事	新潟県〇〇市〇〇町〇丁目〇—〇	R1年8月～R1年11月	100 %	0年 4月
⑮実務経験の対象となる業務の内容(できるだけ具体的に 用途・構造・規模・担当業務 等)				
[1B-01] 建売住宅(木造2階建て住宅、延べ面積〇㎡)新築工事の基本設計業務に従事し、そのうち、基本設計補助(平面、立面、断面計画等)等を担当した。				

(4)	⑩対象物件の名称等	⑪対象物件の所在地	建築実務経験期間		
			⑫年月～年月	⑬建築実務の割合	⑭年月数
	●邸改修工事	新潟県〇〇市〇〇町〇丁目〇ー〇	R1年12月～R2年6月	100 %	〇年 7 月
	⑮実務経験の対象となる業務の内容(できるだけ具体的に 用途・構造・規模・担当業務 等)				
[1B-01、1C-01]					
●邸（鉄筋コンクリート造3階建て住宅）の改修工事（延べ面積〇㎡）の基本設計業務に従事し、そのうち、基本設計補助（平面、立面、断面計画等）等を担当した。					
(5)	⑩対象物件の名称等	⑪対象物件の所在地	建築実務経験期間		
			⑫年月～年月	⑬建築実務の割合	⑭年月数
	▽邸新築工事	新潟県〇〇市〇〇町〇丁目〇ー〇	R2年7月～R2年10月	100 %	〇年 4 月
	⑮実務経験の対象となる業務の内容(できるだけ具体的に 用途・構造・規模・担当業務 等)				
[2C-01]					
▽邸（木造2階建て住宅）の新築工事（延べ面積〇㎡）の工事監理補助を担当した。					
(6)	⑩対象物件の名称等	⑪対象物件の所在地	建築実務経験期間		
			⑫年月～年月	⑬建築実務の割合	⑭年月数
	×邸新築工事	新潟県〇〇市〇〇町〇丁目〇ー〇	R2年11月～R2年12月	100 %	〇年 2 月
	⑮実務経験の対象となる業務の内容(できるだけ具体的に 用途・構造・規模・担当業務 等)				
[2C-01]					
×邸（木造2階建て住宅）の新築工事（延べ面積〇㎡）の工事監理補助を担当した。					
(7)	対象物件の名称等	対象物件の所在地	建築実務経験期間		
			年月～年月	建築実務の割合	年月数
			年 月～ 年 月	%	年 月
	実務経験の対象となる業務の内容(できるだけ具体的に 用途・構造・規模・担当業務 等)				
[]					
※經由庁(機関)記載欄			※登録機関記載欄		

[記入注意]

- この実務経歴書は、勤務先(自営業を含む。)ごとに作成し、今までの建築に関する実務の経歴について登録に必要な業務内容を年代順に記入してください。
- 建築実務経験期間欄は、在職中に建築関係の業務を行った年数を記入してください。在職中に土木関係と建築関係の業務を同時に行った場合は、建築関係業務の割合を年数に換算して記入してください。(例 1年間土木50%建築50%行った場合、建築に関する実務経験年数は6ヵ月とする。)
- 在職中に長期療養等の理由で実際に建築に関する実務に就いていなかった期間は、建築実務経験期間に入れないで計算します。
- 記載内容の記入不備や疑義が生じた場合、再提出や追加書類の提出を求められることになり、登録が遅れる場合があります。また、虚偽の実務経歴を記載した場合、建築士法上の措置や登録が認められない場合もあります。